

コミュニケーションの中の非流暢性

母語話者は伝統的には「流暢に話す」ものであるとされてきたが、近年の研究において現実の発話の実態が明らかにされるにつれ、母語話者もしばしば非流暢に話していることが知られるようになってきている。この流れを背景として、本講演では、我々の日常的なコミュニケーションにおける発話の非流暢性に光を当て、非流暢性が会話参加者たちの認知システム、社会的機序、ならびに文法とつながっていることを明らかにする。また、発話キャラクターの概念の導入や、資料としてインターネット上で無料公開されている「ちょっと面白い話」コーパスの紹介も行なう。

日時：2021年6月2日（水）13：20～14：50（3限）

※Q1水3「言語情報コミュニケーション概論（情報科学概論B）」の講義を公開いたします。奮ってご参加ください。

場所：オンライン（ZOOM）

※ZOOM接続情報は追ってお知らせします。

講師：定延利之（京都大学大学院文学研究科教授、神戸大学名誉教授）

申し込み：<https://kobe-u-ac-jp.zoom.us/meeting/register/tZMrdeGurTwrHtUonK1wXPKdbDaic6Me1Z>

※事前登録をお願いします。登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。

講師略歴

定延利之（さだのぶ としゆき）

京都大学大学院文学研究科教授・神戸大学名誉教授。

専門は言語学・コミュニケーション論・日本語文法。特に話し言葉の文法に関して最先端の研究を行っている。著書に『日本語社会のぞきキャラくり 顔つき・カラダつき・ことばつき』（2011）、『コミュニケーションへの言語的接近』（2016）、『コミュニケーションと言語におけるキャラ』（2020）、『発話の権利』等著書多数。

お問い合わせ：林良子（[rhayashi\[at\]kobe-u.ac.jp](mailto:rhayashi@kobe-u.ac.jp)）